

生涯教育研修活動報告書

臨床化学検査研究班

- 1 実施日時：2024年9月20日 19時00分～20時30分
- 2 会場：ソニックシティビル603会議室 教科・点数：専門-20点
- 3 主題：『乳び・溶血・黄疸』を学ぼう
- 4 講師：小島 和茂（日本電子株式会社）
永井 謙一（埼玉県済生会川口総合病院）
- 5 協賛：なし
- 6 参加人数：会員 27名 賛助会員 5名 非会員 0名
- 7 出席した研究班班員：廣瀬良磨 杉村楓 永井謙一 田中満里奈 福島渉
河野邊和弘 稲葉拓郎 関根梢恵 北川裕太郎

8 研修内容の概要・感想など

今回の研修会では、『乳び・溶血・黄疸』を学ぼうというテーマで、血清情報の標準化の動きなど最新のトピックスについて講演をおこなった。講師には臨床化学会の血清情報の標準化プロジェクトに携わっている日本電子株式会社の小島氏、研究班員の永井氏が講演した。

小島氏の「ピットフォール事例の紹介と血清情報の標準化を目指す業界の動きについて」では、血清情報の算出方法から吸収スペクトルなどの基礎から、薬物の色調による影響や混濁の影響等について説明があった。レザフィリンなど血清の見た目に色調変化が大きくなかったとしても、緑色の色調を持つことで混濁度に偽陽性の影響を与えるなどの報告があった。血清情報標準化の話では臨床化学会でのプロジェクト報告やアンケート結果から今後の動向について考察を交えながら説明があった。現状では分析装置のメーカーによって設定が違うことや、施設のニーズの違いなどから標準化が明確に進んでいるとは言えないが、情報を精査することによりユーザーへの情報共有や知識向上につながっていると感じた。

永井氏は「血清情報の実際～運用している施設と身近な施設の動向～」と題して、まず研究班施設の血清情報の運用や悩みの紹介について説明があった。研究班施設の中でも運用は多様であり、目視と不一致となる事例や溶血の取り直し基準などに関して悩みを抱えている

ことが分かった。永井氏は、この中でも溶血の影響に関してピックアップし、自身の研究や経験から解説を行った。溶血で高値となる各項目の影響や、総蛋白への影響での試薬による違いなど、調べてみることで判明した情報が多くあり勉強になった。

2名の講演の後には質疑応答が行われたが、血清情報の考え方や検体の取り扱いなど多くのディスカッションが行われ非常に有意義な研修会となった。今回の講演で、参加者が現場に持ち帰り、血清情報の考え方や疑問点がでることにより、今後さらなる標準化が進むきっかけになることを望みたい。

提出日：2024年10月2日

文責：北川裕太郎